

三田市議会議員(政党無所属)

## なかたさとし

武庫小、狭間中、北摂三田高、兵庫県立(旧神戸商科)  
大学卒、不動産会社勤務、三田市議会議員2期目

連絡先:nakasatosi19761103@yahoo.co.jp / 090-8796-9513

【深刻な少子高齢化と政治不信】 昨年の日本の出生率が1.20と当初予測を上回るペースで少子化は進んでおり、また、不登校児童が大幅に増加する等こどもの発達についての課題も山積しています。物価高による負担が日増しに大きくなる中、子をつくる事への抵抗感と児童の健全な発達を阻害する要因を取り除く為の努力を怠れば、私たちの社会に未来はありません。『子を産みたいと思える未来への希望』や『こどもたちの社会を生き抜く力と自己肯定感』を、確かなものにしていかなければならないこの重要な最中、何とも残念なことに、本来、先頭に立ち模範となるべき大人たちの側に『政治資金不正・ハラスメント問題・市長公約違反騒動』と、次々に失態は続き政治不信と社会の分断は深まる一方です。・・・

【明日が楽しみになる好循環を】 こどもや若者の成長と活躍は、社会に精神的・経済的活力をもたらし、社会弱者や高齢者を支える社会保障制度の持続性を高めます。すべての世代でこどもと若者を応援し、地域のこどもの成長を近くで感じる事ができる、『明日が楽しみになるまち』を創りましょう。未来を担うこども達には、保身や言い逃れ、足の引っ張り合いに終始する大人の姿ではなく、まっすぐに困難や不正に立ち向かい、小さくとも明日に向けた勇気ある挑戦を続ける姿を見せなければなりません。困難な現状をたちまちに好転させる魔法の様な術はありませんが、一人一人の挑戦をつなげて活かして市民のあたりまえの幸せを守る為にチカラを尽くしてまいります。ぜひあなたの声を聞かせてください。みんなで三田の話をしよう！

## 【目次】本会議個人質問 なかたの提案！

1. **高齢者の孤立化問題**⇒先端テクノロジーの活用と民間事業者との連携で高齢者を見守り、孤立化リスクから守る。
2. **自然環境や地域資源を活かした特色ある学校づくり**⇒好奇心や意欲、自己肯定感を高め、非認知能力×生き抜く力×理料的思考力を身に着ける。
3. **雇用・産業創出**⇒先端のテクノロジーに関与するような若者にとって魅力のある企業を誘致し、若者の定住・転入を促進せよ！

4. **市民総活躍で市内事業者の人手不足解消を！**⇒子育て中、シニア・ブランク有りでも柔軟に働ける『仕事コンビニ』事業を提案。
5. **ふるさと納税を活かした NPO 法人や活動団体の支援**⇒様々な社会課題と向き合う NPO や活動団体をみんなの寄付で応援しよう！
6. **かかりつけ医の重要性**⇒中核病院に患者が集中すれば医療はパンク！かかりつけ医の活躍と役割分担が『身近な医療』と『救急医療』を守る。
7. **オンライン診療・医療システムの共通化**⇒デジタル技術とデータの有効活用で、限りのある医療資源を最適化し、地域医療を守る。

## 1. 高齢者の孤立化問題

～先端技術活用と公民連携で高齢者のリスクを守る～

【問題提起】 深刻な高齢化により高齢者の孤立が社会課題となっています。民生委員・児童委員のなり手不足や自治会加入率低下に象徴されるように**地域のつながりが希薄化**する中で、どのように高齢者を見守り、**孤立によるリスク**を防いでいけばよいのでしょうか。



【先進事例】 先進自治体では日々の**水道使用量データを AI により解析、異変を検知し安否確認**を行うシステムを構築する等、テクノロジーを活用した事例や、また、配食サービス、新聞配達、不動産管理会社といった、日常的に市民と直接接点を持つ民間事業者と協定を結び、高齢者の安否情報を共有する等の公民連携事例が増えてきています。

【技術活用と公民連携】 **地域福祉支援室、地域包括支援センター等公的機関と地域の連携**による現行の体制を核に据え、拡充していきながらも、隙間や不足を補完する為にテクノロジー活用、公民連携等にも目を向けあらゆる資源、政策を総動員し、今後増大するリスクと向き合わなければなりません。



## 2. 三田の特色を活かした教育

～意欲と好奇心×非認知能力⇒社会を生きぬくチカラ～

【三田だからできる取り組みを！】 未来社会を担うこども達の健全な育成は最重要課題であり、子育て世代へ『三田の魅力と、三田のみらいへの確固たる意思』を示すためにも、**自然環境や地域資源を活かした三田だからできる魅力的で特色をもった教育**を実現したいと考えます。

【他市事例】 福山市の常石ともに学園ではドイツ発祥でオランダに広まった『イエナプラン教育』をモデルに、変化の激しい社会をたくましく生き抜く子どもの育成を目指し、対話・遊び・仕事・催しという4つの基本活動を基に、自由度が高く特色ある時間割を編成、⇒**自然の中での探求や、遊び、地域とのかかわり等から主体性や好奇心、表現力、協働の精神**を育む大変独自性のある教育を展開しています。(右上へ)

特に異学年による学びが特徴的で、年齢・発達の状況の違う児童によるグループ編成で学ぶことにより、**グループの中での助け合いや、『同学年で学ぶ時とはちがう新たな役割』**がそこに生まれ⇒個性や発達の違いが当たり前のように認識され、多様性の意識が根付いていきます。このような特色を持つ学校の魅力に惹かれて、『ここで学びたい、ここで学ばせたい。』と県外からも移住者が増えているといえます。

【自然の中で学ぶ⇒理料的な好奇心の芽生え】 北欧などで行われる『森の中での学び』が近年再び注目されています。自然の中での遊びや学びから理料的な好奇心・主体性・創造性・集団活動に必要な能力・変化への対応力等が養われるといわれます。⇒三田は豊富な里山資源に恵まれ、格好の教材が溢れています。⇒里山保全活動を行なう団体の皆さんや、人と自然の博物館との協働により最高の自然教育が実現できるのではないかと考えます。更に、これまで三田市が積み上げてきた『こうみん未来塾』の取り組みをつなぎ合わせれば、これからの社会で特に重要とされる**理料的な好奇心と思考力の基礎、そして創造性を育てる最高の教育プログラム**が完成します。



【課題設定能力と社会を生き抜く力】 また、ボランティア活動の教育的効果に注目すべきです。青少年期におけるボランティア体験には主体性・協働性に加え課題発見能力の育成効果があり教育的意義は非常に大きいといわれます。特に、部活動の地域移行が課題となっている中学生には、地域との協力で**ボランティアクラブを創設する等、ボランティア活動で地域に関われる機会**を増やせないでしょうか。地域課題と課題に取り組む地域の大人達の存在はまさに生きた教材です。

【こどもの成長が地域の希望に】 地域活動に主体的に参加することで、こどもたちに『社会を生き抜く力』が養われるとともに地域側にも活力がもたらされ、『こどもをまんやかにまちぐるみで子供たちを育てよう』という機運醸成につながります。『**地域の子供たちの成長を身近で感じながら生きること**』が、三田のひとつの幸せのスタイルなのだとすることを多くの人と共有したいと考えます。





### 3. 産業・雇用を拡大し若者を呼び込む

～円安とグローバルリスクを背景とした企業の国内回帰の流れを活かす～

【**若者の定住・転入促進**】若い世代の定住・転入促進という課題に、市民の注目が集まっています。若い世代の定住・転入を促進するためには若者にとって魅力のある産業・雇用を創出することが重要です。円安を背景とした日本国内への工場や研究施設などの建設ニーズ増加の流れを活かし、**先端技術を使った開発や製造を手掛けるような若者にとって魅力のある企業を誘致**することにより産業や雇用を創出し、若者を呼び込むチャンスを広げなければなりません。

【**遊休施設の有効利用や規制緩和**】とは言え、上下水道や交通等のインフラが整い、法的に開発が可能でかつ、一団となった適正規模の用地がいくらでもある訳ではありません。第三テクノパーク計画の調査と並行して『市街化調整区域（開発規制）の社会的要請に見合った緩和策』や、『公共施設の再編により遊休となった施設跡地の活用法』についても今後、検討を進めなければならないと考えます。



### 4. 市民総活躍で人手不足解消へ

～地元事業者の人手不足解消と仕事復帰第一歩目の応援を～

【**深刻な労働力不足とミスマッチ**】労働力不足が深刻です。表面的には見えてこない潜在的労働力の掘り起こしと、労使間の互いに求める希望条件の乖離によるミスマッチの解消がカギを握ると考えます。『働きたいけど不安で第一目が踏み出せない』という方の第一歩目の応援と、深刻な地元事業者の人手不足解消の双方の視点から⇒**子育て中、シニア、ブランクのある方と、『ゆっくり少しずつ始める働き方が可能な仕事』をマッチングする仕組み**を地元事業者との連携でつくることができないでしょうか。



【**奇跡の町奈義町**】子育て中、シニア、ブランクがある方の仕事チャレンジ第一歩目には『配慮』が必要なケースが多いと感じますが、一般の求人には配慮の行き届いた求人が多くありません。⇒2019年合計特殊出生率2.95を記録し奇跡の町と呼ばれた奈義町では、地方創生推進交付金を活用し『仕事コンビニ事業』を展開しています。⇒「ひとづくり」と「しごとづくり」をサポートする目的で、事業委託先の地域再生推進法人が、町民との協力により運営、**町民の「ちょっとだけ働きたい」と地元企業の「人手が足りない」をつなげるワークシェアリング事業**を行っています。

【**新しい支えあいの形**】企業に属さずに空いた時間、都合のいい時間で働く新たな選択肢を提供し、同時に地元企業の人材不足も解決するシステムで、雇用者と被雇用者という関係を超えた新しい地元事業者と住民間のコミュニティや支えあいの関係が生まれています。⇒理解ある地元事業者、人手不足に悩む事業者の協力を得て子育て中の方や、ブランクがあり配慮が必要な方にも抵抗が少なく、状態に合わせて段階的な働き方が可能な仕組みをつくり、(慣れてきた段階で正規雇用へ)⇒**中長期目線での潜在労働力の掘り起こし**につなげてはどうかと考えます。



### 5. ふるさと納税でNPO支援

～社会課題解決の担い手であるNPO法人

や活動団体をふるさと納税で応援しよう！～

【**背景**】社会課題解決の為に新たな担い手として大きく期待されたNPO法人ですが2017年をピークに法人数は年々減少し、伸び悩んでいる状況です。⇒それでも活動を継続し、社会課題と向き合ってきたNPOを再評価しなければならない時が来ています。**社会課題解決の為に活動するNPO法人や活動団体への寄付を盛り上げる**ことの重要性をこれまでも議論してきましたが・・・

【**他市事例**】近年、NPO法人や活動団体の応援にふるさと納税の仕組みを活用する自治体が増えてきています。神戸市、西条市等では市内で社会課題解決の為に頑張るNPO法人や活動団体の事業内容を紹介し、ふるさと納税を介して活動に賛同する寄付者からの寄付につなげる仕組みづくりが進んでいます。

【**問題提起**】ふるさと納税の返礼品目当ての納税者獲得競争の過当な現状に疑問と制度の限界を感じます。⇒**自分が育った故郷への寄付の流れ、或いは応援したくなる事業を選んだ寄付の流れを創る事に制度の意義を見出すべき**と考えます。三田で育ち市外で活躍する方や、三田で行われる取り組みに共感してくれる方々から市内NPO法人や活動団体を支援してもらう為にふるさと納税の活用を提案しています。



### 6. かかりつけ医の重要性

～中核病院との役割分担で『身近な医療』を守る～



【**意義・役割**】「かかりつけ医」が関連法の成立により法的に位置付けられました。かかりつけ医に期待される役割としては①**慢性的な病気の継続的で身近な治療**②**検査・専門治療・入院の際の適切な病院・診療科紹介**③**日常の健康管理の相談**④**患者の病歴・病状・健康状態・生活背景把握による、病気の予防・早期発見・早期治療等**が挙げられます。また、かかりつけ医は、地域の医師、医療機関等と協力して休日・夜間の診療や在宅診療の提供体制を構築したり、健康相談、地域保健等の社会的活動、行政活動へ参加する等、地域医療を守るうえで欠かせない存在であります。

【**定着への課題**】**かかりつけ医機能を適正にワークさせることは地域の限りの医療資源を、無駄なく、最適活用するための重要なカギ**になるといえます。しかしながら先般可決した法律の内容は具体性に乏しく、法制化されただけでかかりつけ医の定着が十分に進むとは感じられません。

【**かかりつけ医定着への意識啓発を**】日本の医療制度はフリーアクセスを基本に制度設計がなされており、患者が自由に受診したい医療機関を選択できます。平時には患者に自由な選択の権利が与えられる一方で、**感染症拡大時など医療ひっ迫の状況下では、医療現場の役割と責任の分担が不明確**になったり、拠点病院に患者が集中し、優先順位の高い重度者が後回しになるなどの混乱が生じるリスクが高まります。皆さんが**信頼のおけるかかりつけ医を持つことは、国民皆保険制度や医療体制を守る上でも大変重要**なのです。

### 7. オンライン診療とシステム共有化

～オンライン診療や、システム・情報連携で、限られた地域医療資源を最大化し、医療供給能力の量と質を高める～

【**先進事例**】高知県宿毛市と、地元の中核病院である大井田病院はオンラインによる診療・服薬指導と、地域医療情報共有ネットワークを基盤に、かかりつけ医を中心とした多職種連携で地域を支える“すくも市モデル”を構築しています。

【**オンライン診療の効果**】オンラインによる診療・服薬指導により、医療へのアクセスが向上し、高血圧や糖尿病、脂質異常症など、定期診察が必要な疾患の治療継続率が増え、重症化を防ぎ、更には病院や薬局への通院負担や待ち時間の削減に貢献しています。⇒在宅訪問医師の移動時間を削減することができるので、**地域医療において大変貴重な存在である在宅訪問医師の業務効率化や負担軽減効果**も期待されます。

【**システム連携の効果**】また、ネットワーク活用による多職種間相互の情報共有からも大きな可能性を見いだすことができます。例えば「新しい病院に行くたびに、アレルギーや過去の病歴を毎回聞かれる。」「薬局で、病院と同じ質問をされる。」「病院を変えたら、同じ検査が重複した。」というような無駄や重複がよく起こります。⇒地域の医療機関や薬局などが共通ネットワークを導入することにより、「1地域・1患者・1カルテ」が実現、患者の承諾のもと、診療情報、アレルギーや既往歴、薬、検査結果などがネットワーク上で共有されることで、医療の質の向上と効率化が達成され、**診察や検査、投薬の重複、多剤併用などの課題が解決**されます。

【**救急・災害・在宅医療にも有用**】救急搬送時にも持病や薬の情報があれば迅速な医療対応が可能となり、災害時、カルテの無い避難所でもネットワーク上のデータにより、適切な医療を提供できます。また、患者の転院時、医師の紹介状等の手続きが大幅に削減され、在宅医療においては、患者宅に訪問する**医師、看護師、薬剤師、介護士などの多職種連携が進み、共有情報をもとに最適なケアの実施が可能**となります。

【**労働力不足解決の切り札に**】今後、医療・介護職の労働力不足がさらに深刻化すると予測される中、医療の質向上と効率化の効果が期待できる『情報共有ネットワークシステム構築及びオンライン診療・オンライン服薬指導の実用化』に向けた研究を進めるよう求めています。

